東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 1 月 29 日

旅をすること,教訓を得ること

親愛なるムスリムの皆様。本日は、旅をすることと、教訓を得るべく周囲を観察することの重要さを示すクルアーンの章句を紹介したいと思います。

「言ってやるがいい。『地上を旅して観察せよ。かれが如何に、最初の創造をなされたかを。やがてアッラーは、最後の（甦りの）創造をなされる。本当にアッラーは凡てのことに全能であられる。』」（蜘蛛章第２０節）

「かれらは頭上の天を見ないのか。われが如何にそれを創造し、如何にそれを飾ったか。そしてそれには、少しの傷もないと言うのに。また、われは大地をうち広げ、その上に山々を据え、様々の種類の美しい（草木）を、生い茂らせる。（それらは）悔悟して（主の御許に）返る凡てのしもべが、よく観察すべきことであり、教訓である。」（カーフ章第６－８節）

「かれらは駱駝に就いて、如何に創られたかを考えてみないのか。また天に就いて、如何に高く掲げられたか、また山々に就いて、如何に据え付けられているか、また大地に就いて、如何に広げられているかを。だからあなたは訓戒しなさい。本当にあなたは一人の訓戒者に外ならない。」（圧倒的事態章第１７－２１節）

親愛なるムスリムの皆様。「あなたがた以前にも多くの摂理の例があった、あなたがたは地上を旅して、真理を嘘という者の最後がどうであったかを見なさい。」（イムラーン家章第１３７節）「かれらは地上を旅して、かれら以前の者たちの末路が どうなったかを観察しなかったのか。かれら（昔の者）は、かれらよりも力が優れていた。天にあり地にある何ものも、アッラーを挫くことは出来ないのである。本当にかれは全知にして全能であられる。」（創造者章第４４節）

「かれらは、如何に多くの園と泉を残したか。また（豊かな）穀物の畑と、幸福な住まいを、またかれらがそこで享楽していた良い物を（残したか。）（かれらの最後は）こうであった。そしてわれは、外の民に（それらを）継がせた。かれらのために、天も地も泣かず、かれらに猶予も与えられなかった。」（煙霧章第２５－２９節）

親愛なるムスリムの皆様。「かれらは地上を旅して、かれら以前の者の最後がどうであったかを観察しないのか。かれらは、これら（マッカの多神教徒）よりも有力で、地上に残す遺跡においても優れていた。しかしアッラーは、かれらを罪のために捕えられた。その時アッラーから、かれらを守れる者は一人もなかった。」（ガーフィル章第２１－２２節）

「本当にこの中には心ある者、また耳を傾ける者、注視する者への教訓がある。」（カーフ章第３７節）